

「コリントでの宣教 2」

2016年07月25日

使徒言行録 18章5節～11節。シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証した。しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の隣にあった。会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

パウロはコリントに来て、同業のテント造りの職人アキラと妻プリスキラ夫婦の家に滞在し、テント造りをしながら、安息日毎に、会堂に行き、ユダヤ人やギリシア人に主イエスの福音を語り続けた。巧みな言葉や優れた知恵を用いるのではなく、霊の力によって、十字架につけられた主イエスのみを伝える、十字架の愚かさに徹した宣教であった。

そこへ、シラスとテモテがマケドニア州から後を追ってコリントに来た。パウロは福音宣教に専念し、イエスがメシア（キリスト）であると力強く証した。ところが、ユダヤ人たちはパウロの宣教に反抗し、口汚くののしった。パウロは抗議のしるしに、服の塵を振り払い「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く」と言い放った。そして、ユダヤ教に改宗したギリシア人のティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の隣であったという。ユダヤ人から離れるならば、ユダヤ人が行き来する会堂から遠い所が良いと思いが、パウロが移った家は会堂の隣であったというから、驚きである。パウロは常に、戦闘的である。

コリントのユダヤ人会堂での宣教で、会堂長クリスポは、一家をあげて主イエスを信じ、また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。パウロの十字架の愚かさに徹した宣教は、頑強なユダヤ教徒からは反発されたが、異邦人たちからは受け入れられていったのである。

そのようなある夜、主は幻の中でパウロに告げた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」パウロは、このみ告げを受けて、1年6ヶ月も、コリントに留まって、宣教活動を続けた。パウロの宣教は、数週間、せいぜい数ヶ月で、1年半の滞在は極めて長い期間であった。パウロはコリントの宣教に大きな使命を感じたに違いない。

アテネとコリントはギリシアを代表する都市であった。アテネは学術都市であるのに対し、コリントは対照的な商業都市であった。コリントは東西に入り組んだ恵まれた湾があり、東西から船で物資が運び込まれ、海上交易で繁栄していた。しかし、繁栄の影で、町は退廃していた。「コリントする」は「不品行を行う」の意味に取られた。パウロは町の退廃を鋭く見据え、福音宣教の使命に燃えたのではないか。